

## 自己評価報告書

平成23年4月28日現在

機関番号：22604  
研究種目：基盤研究（C）  
研究期間：2008～2012  
課題番号：20520618  
研究課題名（和文） 『三国遺事』の総合的研究  
研究課題名（英文） A study on Samguk-yusa  
研究代表者  
木村 誠（KIMURA MAKOTO）  
首都大学東京 人文科学研究科 教授  
研究者番号：40094263

研究分野：朝鮮古代史

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：朝鮮古代史、『三国遺事』、古刊本、中宗壬申刊本、書誌データ

## 1. 研究計画の概要

（1）本研究は、朝鮮古代史研究における基本文献の一つである『三国遺事』を、総合的に調査・研究することを目的とする。研究は国内外に所蔵されている諸版本の調査と『三国遺事』本文の校訂・史料批判、および収録されている各記事の内容分析から構成される。

（2）具体的には、まず『三国遺事』諸版本の書誌学的調査を実施する。日本・韓国に現存する古刊本・中宗7年刊本（壬申本）を可能な限り実地調査し、古刊本・壬申本が持つ諸特徴を総合的に把握する。そのうえで諸版本の先後関係を確定することを目指す。

（3）次に、版本調査を踏まえ、『三国遺事』各巻の校訂と史料批判を行い、その成果を校訂・訳注校本として公表する。

（4）最後に、以上の版本調査、校訂・史料批判を踏まえ、『三国遺事』各記事の史料的性格の分析を行う。その際の基本的視点は、『三国遺事』を高麗時代の歴史的編纂物として改めて位置づけなおし、その性格を再吟味することである。高麗時代の史料として『三国遺事』を再評価することによって、はじめて古代史史料としての可能性を理解するこ

とができ、また、それを通して、『三国遺事』を東アジア古代史研究に広く活用し得るテキストとして確立することが可能となるであろう。本研究ではこの点に留意しながら各記事の分析を行う。

## 2. 研究の進捗状況

## （1）版本調査

梵魚寺本（古刊本）、天理大学本・蓬左文庫本・高麗大晩松文庫本・ソウル大奎章閣本（以上、壬申本）について、原本あるいは原寸大の複製本を対象に書誌学的調査を実施した。また、趙鍾業本・泥山本（いずれも古刊本）の原寸大コピーを入手し、書誌データを採取した。各版本は貴重書として所蔵・登録されているものが多いため、原本に当たっての調査が叶わない場合もあったが、各版本について匡郭や版心の状態等の基本的な書誌データを得ることで、諸版本の比較検討が可能となった。現在、それに基づいて各版本の特徴と先後関係を分析中である。

## （2）校訂・訳注

巻1、巻2の校訂・訳注を基本的に終了し、校本を作成した。作業では異体字・俗字の判読、欠字・誤字等の校訂、訓読と平易な日本語訳の作成を行った。特に2巻では、古刊本とされる趙鍾業本・泥山本に注目し、より厳密な校訂を心がけた。現在、巻3を対象に校訂・訳注作業を行っている。また、平行して王暦の校訂・訳注を行い、平成23年度中、もしくは24年度前半には訳注本の刊行を開始する予定である。

## （3）『三国遺事』各記事の分析

校訂・訳注作業で得られた知見をもとに、

『三国遺事』各記事の史料的性格を分析するための準備作業を行った。具体的には、『三国史記』、中国正史等からの引用記事と原典記事の比較検討、『三国遺事』の随所に引用されている古記・郷伝・金石文・古文書等の性格把握、そして説話的文章に関する研究文献の収集等である。今後、これらの基礎作業をふまえて各記事の個別的な分析を進めつつ、『三国遺事』全体の史料的性格について検討する予定である。

### 3. 現在までの達成度

③やや遅れている。

(理由)

『三国遺事』の版本調査に思った以上の時間を費やしたため、校訂・訳注作業と各記事の分析を計画通り実施することができなかった。

### 4. 今後の研究の推進方策

#### (1) 版本調査

昨年度で版本調査は基本的に終了しているので、今後は、調査結果をもとに各版本の先後関係および古刊本の性格について検討を進め、その成果を公表する。

#### (2) 校訂・訳注

校訂・訳注校本の作成を進め、最終年度までには訳注本の刊行を開始する。

#### (3) 『三国遺事』各記事の分析

本研究で最も進行が遅れている課題であり、今後二年間で集中的に実施する。特に説話的文章の批判的検討により、『三国遺事』から抽出し得る史実を確定し、『三国遺事』の史料的価値の再評価を試みる。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計0件)

[学会発表] (計0件)

[図書] (計0件)